

第2部 寺尾紗穂さんの トーク&ライブ



寺尾紗穂さんは1981年生まれ。2007年のアルバム「御身」でデビューされ、エッセイでも活躍中の、気鋭のシンガーソングライターです。
集會室に弾き語りの優しいピアノの音色と透明感のある歌声が響き、一同水をうつたように聴き入りました。歌詞もトークもごく一部しかご紹介できず残念ですが、みずみずしい感性のあふれるステージを少しでもお伝えできればと思います。

先ほど澤地さんから本を読む人が読まない人に語りかけていくしかないというお話がありましたが、はじめに、私がモーパッサンの短編「狂女」に感銘してできた作品を歌います。

「狂女」

♪女がまだきれいだっただとき 父と夫と坊やとが つづけて死んで行きました・・・三人の影を抱きしめて 女が床に臥せたとき 国に戦が起きました・・・とうさんどこへいったら あの日も帰りがおそい 坊やよはやくでておいで わたしはここで待つてゐるから 兵士が家までやって来て 立てと命じたときも 女は同じ床のなか三人の影を思い出す・・・兵士が女の床ごと持ち上げ 林の中へと運んでも女はかすかにわらつてた・・・いくさも終わる 林にひとつのしやれこっぺ・・・風が吹けば聞こえるそうなの とうさんどこへいったら あの日も今日も帰りがおそい 坊やよはやくでてお

い で わたしはここで待つてゐるから

私は、小学校の高学年の時から何となく昔あつた戦争について気になっていました。きっかけは小学3年の時。母が関東大震災の時多くの朝鮮人が殺されたと教えてくれました。なぜこんな理不尽なことが昔起こっていたのだらうと過去への疑問の種がまかれた瞬間だったように思います。先ほど、澤地さんが若い人は年寄りの話を聞くのではなく、自分の生きてきた15年、20年に何があつたかというところを見つめなさいというお話をなさいましたが、私はお年寄りの話を聞きたい。戦争でサイパンに行かれた沖縄の人の話も聞きました。

学生時代、日雇い労働者がいっぱいいる山谷の夏祭りにいった時に、た

またま、通っていた大学の八王子校舎をバブルの時に建てたというおじさんに出会いました。そのおじさんはお金がなくても自分の好きな作品を描いている絵描きさんでした。

「ある絵描きの歌」

♪ひとりの絵かきがおりました 花と山と描きました・・・絵描きに家はなく ゴミ拾ひ・・・それを見ていた人々は見えないふりをしてました：霞を食つてゆけたらそれはどんなによからうか・・・青い花の絵すぐにでも 霞に代わりてたべちまおう 絵描きが死んだその朝はいつもと同じ朝でした・・・

私が出会つたおじさんは60代ですが、貧困の問題は既に私達若い世代の問題になっていきます。ホームレス寸前の若者達が沢山います。ここに来る前に渋谷駅で知りあいのおじさんからビッグイシューを300円で買いました。その内160円がその人の収入になる。頑張つてアパートに入る費用をためるシステムの雑誌です。ビッグイシューの販売者さんも年齢が拡がり、若年化が進んで私と同じ位の販売者さんもあります。次も絵描きのおじさんに出会つてできた歌です。

「アジアの汗」

♪おじさんは土方さん けがした土

方さん・・・おじさんは中国語話す いろんな国の言葉話す・・・フィリピンもマレーシアも あいつらいつもいつも 遠くの空 眺めてた アジアの汗しみこんだ この国のビルだからそうなんだ ビルガラスが青空映すのは・・・おじさんはひとりもの 生活保護のひとりもの・・・目のきれいなひとりもの

そのおじさんは2008年交通事故で長く入院、退院した日にお酒をたくさん飲んでその夜、ぼっくりと亡くなりました。日雇いの方は食生活も良くないので、そういう時にぼっくり亡くられる方も多い。何気ない出会いでしたが、私にとって特別な出会いになりました。どうしてそのおじさんと出会つたんだらうと考えました。自分は既に路上で暮らしてる人やビッグイシューを売っている人が、何となく他人ではないような気持ちになつてた。だから自分はそこで一つ使命をもらつたというか、そこで特別な経験をした者として動かないといけないと思つています。

ホームレスにまつわる歌をもう一つ歌います。私の知り合いのラッパの方の実体験の詩に曲をつけたものです。人をはねた歌で不謹慎と思われる方もいるかもしれませんが、実際は不条理な実態を歌っています。

「はねたハネタ」

♪ひとをはねました おもいきりは
ね飛ばした 月のすぐきれいな夜
・・・かわちゃんて名前のおっさ
んだった 金もない住所もない
戸籍もとくに売っぱらった・・・
病院であつたら あんちゃんねて
くれてほんとありがとう・・・♪

もしホームレスが轢かれても戸籍上
存在しない人間を撥ねたのだから犯
罪にならないというのが実情です。
私が住んでいる甲州街道沿いを歩い
ていると花が添えられていて交通事
故が多いなあという印象をもちます。

「花をもっと」

♪：花をもっと あのこにもっと：
幹線道路のわきにはいつも赤い花束
咲いている・・・車がとおれなく
らいに 花をもっと・・・♪

すでに亡くなった私の祖父自身は戦
争には行っていません。祖父の兄二
人がフィリピン沖に沈んでいます。
私が直接知っている親戚で戦争で死
んだ人はいないので、祖父の気持
ちを考えると、残された者の
苦しみについて想像できる気がしま
す。

「残照」

♪陽はすでに落ち 暗い部屋にひと
り こぼれ行く時を足元に見つめ
間えど答えなく 風がなるだけ 愛

した人もいまは遠く 時かえらず
あなたの微笑みが 遙か届くだけ
残照のように♪

この曲は私と同世代の女性の安藤桃
子監督の映画「0.5ミリ」の主題
歌です。主人公の若いヘルパーと老
人たちの物語ですが、安藤監督は
映画の終盤で戦争の問題を描いてい
ます。若い同世代の監督がでる形
で誠実に表現しようとした作品で
す。東京は来春の公開になります。

2010年



に樋口健二
さんの原発
労働者につ
いての本を
たまたま読
み、なんて
ひどい事が
起きている
のか、これ
は原発が人
の命を削っ
て作って
いる電気だと思つようになりまし
た。これはそれで2010年に作つた歌
なのです。

「私は知らない」

♪愛を知らない子どもたちに 歌う
子守唄 私は知らない・・・私は知

らない 人を守るすべを私は知らな
い・・・原発の日雇いで 放射能で
被曝したおじさんが 虫けらみたい
に弱るのを 都会の夜は黙殺する・・・
あるのは泥のように 続いていく
日々 泥の上に花を咲かすそのすべ
を 私は知らない 私は知りたい♪

私は大学時代屋久島に行き、そこで
中島敦の短編集に入っていた「マリ
ヤン」を読みました。その他に旧南
洋群島と呼ばれた島々を舞台の短編
がいくつもありました。彼はパラオ
の国語の教科書を作る文部省の役人
として赴任したのでした。

サイパンではたくさん島民の人た
ちもたくさん犠牲を強いられてな
くなっています。日本の本では、チャ
モロ族、カロリニア人が戦争に巻き
込まれたという事実はあまりとりあ
げられていないというのが実感です。
サイパンの老人ホームで話を何度も
聞きました。南太平洋の島々をかつ
て日本が統治しそこに公学校という
日本語を島民に教えるところがあり
ました。そこで学んだ子供たちは今
はお年寄りですが、会いに行くと当
時の思い出もきちんとした日本語
で話し、日本の歌も歌ってくれます。

そういう人がまだいるんだとびっく
りしました。当時馴染んだ日本語の
歌をサイパンの人たちはよく覚えて
います。その中で私はエノケンさん

の「洒落男」を覚えました。

チャモロ族、カロリニア人（当時は
日本人カナカ、今は蔑称といわれて
いる）の老人たちと話をしていると
公学校で学んだ人たちがいずれい
なくなり、消えていく日本語がある
んだと実感します。一方で、観光地
化されたサイパンのホテルでは平井堅
の歌が流れ、日本語が溢れているわ
けです。

「Mr.サイパン」

♪繁るヤシの木さびれた戦車 波打
ち際の沈船 Mr.サイパンはほえん
だ・・・大正4年生まれだと 笑っ
た瞳のその奥に 去り行く記憶の苦
い味を知る・・・まるで内地サイバ
ン 鈍い傷跡・・・♪

最後の曲は平田俊子さんの現代詩に
曲を付けたものです。

「富士山」

♪きみはゆく きみはゆく4月 遠
い国 遠すぎる国に 君との歳月
長い長い歳月・・・混沌とした歳月の
果てに こんな結末がまつていた・・・
わたしをわすれ 思い出を葬り 海
と空とをあとにする 君との歳月
君の歳月 これから先の君の歳月に
わたしは関わることはない・・・
君が最後に見るのは富士山 君の記
憶に残るのは富士山・・・♪